

令和7年第3回（6月）掛川市議会定例会  
一 般 質 問 発 言 順 序 （予定）

|     |       |            |
|-----|-------|------------|
| 1   | 1 7 番 | 藤 澤 恭 子 議員 |
| 2   | 4 番   | 塩 崎 克 彦 議員 |
| 3   | 1 5 番 | 勝 川 志保子 議員 |
| 4   | 8 番   | 堀 内 宏 樹 議員 |
| 5   | 1 6 番 | 鈴 木 久 裕 議員 |
| 6   | 1 4 番 | 富 田 まゆみ 議員 |
| 7   | 1 2 番 | 山 田 浩 司 議員 |
| 8   | 3 番   | 山 下 浩 章 議員 |
| 9   | 1 9 番 | 窪 野 愛 子 議員 |
| 1 0 | 2 番   | 川 上 志 満 議員 |

令和7年第3回（6月）掛川市議会定例会  
一般質問発言順序（予定）

---

|           |     |        |
|-----------|-----|--------|
| 6／13（金）AM | 17番 | 藤澤恭子議員 |
|           | 4番  | 塩崎克彦議員 |

---

|    |     |         |
|----|-----|---------|
| PM | 15番 | 勝川志保子議員 |
|    | 8番  | 堀内宏樹議員  |
|    | 16番 | 鈴木久裕議員  |

---

|           |     |         |
|-----------|-----|---------|
| 6／16（月）AM | 14番 | 富田まゆみ議員 |
|           | 12番 | 山田浩司議員  |

---

|    |     |        |
|----|-----|--------|
| PM | 3番  | 山下浩章議員 |
|    | 19番 | 窪野愛子議員 |
|    | 2番  | 川上志満議員 |

---

## 一 般 質 問 通 告 要 旨

|      |    |    |         |  |
|------|----|----|---------|--|
| 議席番号 | 17 | 氏名 | 藤 澤 恭 子 | 質問の方式 ( <span style="border: 1px solid black;">一問一答</span> ・一括 ) |
|------|----|----|---------|--|

### 1 市長 2 期目の市政運営について

(答弁：市長)

市長就任 2 期目の令和 7 年は、市制 20 周年を迎える記念すべき年でもある。社会を取り巻く環境や市民意識の急激な変化をどのように受け止め、市政に反映していくのか。副市長時代から通算 6 年の掛川市政を振り返り、2 期目の抱負と、様々な課題解決へ向けての意気込みを伺う。

- (1) 1 期目の反省と 2 期目の抱負を伺う
- (2) 合併から 20 周年を迎え、南北の均衡ある発展について具体的な見解を伺う
- (3) 令和 7 年度の主要事業である市制 20 周年記念事業を一過性のイベントで終えることなく扱うべきである。市民の心に何を残すのか伺う

### 2 掛川市の平和教育について

(答弁：市長、教育長)

掛川市は、恒久平和への願いを込めた「掛川市非核平和都市宣言」に基づき、様々な平和教育を推進してきた。しかし戦後 80 年を迎え、戦争体験を語れる方が減少している。当たり前である今の平和は、先人たちの特別な努力の上に築かれたものであることを改めて認識し、幸福感を高めていく重要性が増している。平和教育は、単に戦争を起こさないことだけにとどまらず、人間の尊厳や人権を尊重し、未来を担う子供たちを育成するための投資でもある。戦後 80 年の節目を迎えるにあたり、掛川市の平和教育をさらに充実させ、市民の平和意識や平和運動の推進に向けた施策について展開を伺う。

- (1) 掛川市における広島市平和祈念式典への中学生派遣のこれまでの成果と、代替の平和教育をどのように考えているのか伺う
- (2) 平和学習資料「掛川市平和と私たちの未来」を今後どのようにしていくのか伺う
- (3) 市民が幸せや豊かさを感じられる、幸福感を高める教育や施策への見解を伺う

### 3 再犯を防止して安全、安心な社会へ

(答弁：市長)

刑法犯の検挙件数は、年々減少しているが、検挙者に占める再犯者の割合は増加しており、令和 5 年版犯罪白書によると、令和 4 年の再犯者率は 47.9% と、検

挙された者の約半数が再犯者という状況で高止まりしている。その背景として、矯正施設から出所した方の中には、貧困や障がいなど様々な生きづらさを抱え、再び犯罪に手を染めてしまう方も数多く見受けられる。こうした方々が地域社会で孤立しないよう支援を行うために、保護司会や更生保護女性会の活動も見られるが、国、地方公共団体、民間協力者が一丸となった取組が必要とされている。

平成28年12月には「再犯の防止等の推進に関する法律」が施行され、地方公共団体は再犯の防止に関し国と役割を分担しながら、その地域の状況に応じた取組を行うことが定められていることから、以下を伺う。

- (1) 法務省は保護司の成り手として自治体職員などの地方公務員に協力を呼びかけているが、どのように考えているか伺う
- (2) 再犯防止の推進には、地域と行政が連携し、福祉などにつなげることが不可欠であるが、掛川市の取組を伺う
- (3) 掛川市において、保護司会、協力雇用主会、更生保護女性会などの更生保護を支える方や団体へのサポートは十分か伺う
- (4) 令和8年度に改訂予定の第四次掛川市地域福祉計画・地域福祉活動計画に、再犯防止に関する内容を盛り込むなど、再犯防止推進計画を策定する必要があると思うが、見解を伺う

# 一 般 質 問 通 告 要 旨

|      |   |    |         |   |
|------|---|----|---------|---|
| 議席番号 | 4 | 氏名 | 塩 崎 克 彦 | 質問の方式 ( <span style="border: 1px solid black;">一問一答</span> ・一括) |
|------|---|----|---------|---|

## 1 掛川浜岡バイパス及び掛川東環状線整備促進について (答弁：市長)

掛川浜岡バイパス及び掛川東環状線については、平成7年に交された「満水・東山口まちづくり計画協定」により、30年の歳月をかけ、菊川市や周辺地域と協議、検討が進められてきたが、未だ着手すらされていない。この2路線の区域には、新エコポリス第3期事業、加えて新廃棄物処理施設の新設工事に伴うごみの外部搬出により、大型車両の増加や通勤時のさらなる渋滞が予想される。こうした中、市民の安心、安住のための対応をどう考えているのか伺う。

- (1) 令和7年度中に掛川浜岡バイパスの調査を菊川市と共同で委託することになっているが、その経緯と調査目的及びその内容について伺う
- (2) 朝夕の通勤時間帯の都市計画道路杉谷初馬線の渋滞解消や通学路である市道成滝本通り線の安全確保のためには、掛川浜岡バイパス、掛川東環状線を併せて整備する必要があると考えるが、見解を伺う
- (3) 新エコポリス第3期事業、新廃棄物処理施設新設工事及びごみの外部搬出により、大型車両の進入や通行による様々な影響が心配される中、いかなる対策が検討されているのか伺う

## 2 医療費を抑制するための先進的な取組について (答弁：市長)

掛川市では「かけがわ生涯お達者市民推進プロジェクト」により、検診事業、講座開催、健康アプリなど様々な健康予防事業を展開してきた。しかしながら、医療費は増大しており、掛川市財政に大きな影響を与えるほどの、目に見える成果は見られない。今後、ますます高齢化が進むことで、医療や介護サービスの需要が高まると考えられ、健康の維持、管理への取組は急務と察する。そこで、以下について伺う。

- (1) 令和6年度に静岡県が発表した市町別「お達者年齢」では、掛川市は男性が8位、女性は15位だった。上位市町の取組と比較、分析した上で、課題を明確にしているか伺う
- (2) 検診受診率向上に向けて、どのような取組を行っているか伺う
- (3) 健康に関心を示してもらえそうなイベントの計画と周知方法について伺う
- (4) 令和7年度から保健活動推進委員と食生活推進員制度を廃止し、ボランティアを募っているが、現在の状況を伺う

## 一 般 質 問 通 告 要 旨

|      |    |    |           |   |
|------|----|----|-----------|---|
| 議席番号 | 15 | 氏名 | 勝 川 志 保 子 | 質問の方式 ( <span style="border: 1px solid black;">一問一答</span> ・一括) |
|------|----|----|-----------|---|

### 1 22世紀の丘公園に子育て支援施設としての位置づけを (答弁：市長)

人気の22世紀の丘公園に新たに整備される屋内遊び場m i r o c c oへの子育て世代の期待は大きい。しかし、子どもの遊び場については無償もしくは低料金としている自治体がほとんどの中、m i r o c c oは利用料金設定が高く、幼児や子ども料金もないことに、「これでは気軽に利用できない」と落胆の声も聞いている。子どもにとって楽しい施設、子育て世代が子育てのヒントももらいながら安心して子どもと過ごせる待望の施設であるだけに、経済的理由で利用を諦めることがあってはならない。市として誰もが利用できるための対策を講じて、子育て支援の姿勢をしっかりと市民に示す必要があると考え、以下伺う。

- (1) たまり～な内に整備される屋内遊び場m i r o c c oは、公設の子育て支援施設であると考えるが、見解を伺う
- (2) 利用料金制への移行により、施設利用料の減免分を市が負担している高齢者や障害者などと同様に、子育て支援の観点から減免分を市が負担し、幼児や子どもの料金を再検討すべきと考えるが、見解を伺う。
- (3) 例えば、m i r o c c oカードといったものを提示して無料にするなど、子育て支援施設として気軽に市民が利用できるための対策を講ずるべきと考えるが、見解を伺う
- (4) 22世紀の丘公園を、子育て支援施設としてしっかりと位置づけ、公園の複合的運用に市が責任を持つべきと考えるが、見解を伺う
- (5) 市内公園管理に、保育士資格などを持つ職員を配置し、維持管理や運用に子育てのプロの目線を取り入れることで、公園をより安全で楽しい場所にできると考えるが、見解を伺う

### 2 市民とともにごみの減量化の推進を (答弁：市長)

ごみの全量外部搬出が始まった。全てのごみ処理を外部に任せるという非常事態が今後5年継続することになる。6月号の広報かけがわでうたうゼロ・ウェイスト（ごみを限りなくゼロに近づけることを目指す理念や活動）のまちを目指す自治体として、市民とともにごみ減量化に取り組むことで、ごみの排出量も処理費用もダイレクトに削減できると考え、以下伺う。

- (1) 現在の掛川市のごみ全量外部搬出状況について、市の見解を伺う
- (2) おむつリサイクル・ごみ減量推進会議の提言を受け、ごみ減量化への新たな

取組目標を伺う

- (3) 「掛川市もったいないを合言葉にカーボンニュートラルを推進する条例」施行から1年が経過したが、その成果と課題を踏まえた今後の施策を伺う
- (4) 燃やすごみの他、剪定枝や落ち葉や草、分別回収したプラスチック、不燃物などが集められた後の処理方法を市民に知らせることが、正しい分別と減量化の後押しになると考えるが、見解を伺う
- (5) 市民向け出前講座や、見学ツアーなどの学習の機会を、市民団体や市民の力を生かして広げることが、市民の意識改革には重要と考えるが、見解を伺う
- (6) SDGsプラットフォーム、協働のまちづくりアドバイザーなども活用し、食品ロスなどを減らす活動と子ども食堂などの社会的な活動を結びつけることができないか伺う
- (7) 減量に向かっているごみの排出量や、意欲的に減量化に取り組む姿勢から、掛川市一般廃棄物処理基本計画における10年後の減量化目標を前倒しし、5年後の新廃棄物処理施設稼働までに目標達成を目指すことができないか伺う

# 一 般 質 問 通 告 要 旨

|      |   |    |         |   |
|------|---|----|---------|---|
| 議席番号 | 8 | 氏名 | 堀 内 宏 樹 | 質問の方式 ( <span style="border: 1px solid black;">一問一答</span> ・一括) |
|------|---|----|---------|---|

## 1 放課後児童クラブのさらなる充実、整備について (答弁：教育長)

小学校によって児童数は大きく差があるため、小学校ごとに放課後児童クラブの適正な設置数は異なる。また、放課後児童クラブごとに学年の上限が違うなど入所基準が異なり、地域格差が生まれているように感じる。子供も保護者もどこに住んでいても不公平感なく同じように利用できるために、入所基準を統一する必要があると考えるため、以下について伺う。

- (1) 各小学校の現状に合わせ、適正な数の放課後児童クラブを整備する必要があると考えるが、見解を伺う
- (2) 放課後児童クラブによって受け入れる学年に差があるが、保護者の就労状況に合わせ6年生まで受入できるよう統一ができないか伺う
- (3) 放課後児童クラブ内では年齢差のある複数学年の児童が一緒に過ごすことになるが、どのように対応しているのか伺う
- (4) 令和7年4月に統合した原谷小学童保育所、原田学童保育所の現在の運営状況について伺う
- (5) 今後計画されている小中一貫校整備における放課後児童クラブの方向性について伺う

## 2 放課後児童クラブの安全安心な運営について (答弁：市長、教育長)

地域に広く開かれている放課後児童クラブは、地域との距離が近く親近感があり、子供たちをみんなで見守っていく気持ちが感じられてとても良い取組であると感じる。一方で、悪意を持った者が侵入する可能性があるため、不測の事態、特に不審者に対応する実践的な訓練を定期的に行う必要性が非常に高いと感じていることから、以下について伺う。

- (1) 実践的かつ定期的な不審者対応訓練の実施が必要と考えるが、現在の訓練実施状況を伺う
- (2) 訓練や対応のマニュアル化と情報共有についていかに対応しているか、伺う
- (3) 警察、消防、民間企業、地域住民など様々な職業や立場の人と連携、協力した不審者対応訓練が必要と考えるが、見解を伺う
- (4) 多職種連携や協働のまちづくりを目指す掛川市として、子供に関わる施設の職員は、様々な職業経験を積んだ人材が必要と考えるが、見解を伺う



一 般 質 問 通 告 要 旨

|      |    |    |        |   |
|------|----|----|--------|---|
| 議席番号 | 16 | 氏名 | 鈴木 久 裕 | 質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 <input type="checkbox"/> 一括 ) |
|------|----|----|--------|---|

1 掛川市の地区自治組織の在り方について

(答弁：市長)

市がまちづくり協議会制度をつくっておよそ10年が経過した。当初から「地区内に諸組織が並立し複雑でわかりにくい、役員が忙しい」などの声が挙げられてきたが、現在でもこの状況はほとんど変わっていないように見受けられる。

このことについては、議会としても問題と捉え、既に平成30年度には、「地区組織の在り方や方針を一貫して、地区に指し示すことができていないことが課題」と指摘した上で、早急な対策を求める政策提言をしている。地区組織の現状と、提言への対応状況等について、以下を伺う。

- (1) 各地区に「地区区長会」、「地区まちづくり協議会」、「地区福祉協議会」の3組織が並立している現状と、市民の声に対する市の考え方を伺う
- (2) 掛川市自治基本条例第24条第2項にある「地区」の範囲、構成員、代表者について、市の見解を伺う
- (3) まちづくり協議会の代表者は、地区を代表する者か、見解を伺う
- (4) 現時点で規約を持つ「地区」はどれだけあるか。議会からは「自治組織としての地区の規約策定を進める」ことを提言したが、これに対して市はどのような対応をしてきたか、伺う
- (5) 地区の規約策定を促進するためには、地区任せにせず、規約の参考例を市が示していくことが必要ではないか。今後の対応と併せ、方針を伺う
- (6) 各地区が議決機関、各種事業の執行機関等を明確にした規約を定めたうえで並立している地区内諸組織の統合化を推進していくことは、かつて組織並立を進めた市の責務だと思うが、方針を伺う

2 (仮称) 掛川倉真第2パーキングエリア開発事業について

(答弁：市長)

このほど(仮称)掛川倉真第2パーキングエリア(以下「第2PA」。)の開発について、市から、中継物流拠点構想を軸として事業協力予定者を決定し、今後6か月以内に協定を締結する運びであるとの情報提供があった。このことについて、以下を伺う。

- (1) 今回の計画は、これまでの商業、娯楽、便益施設を中核とする案とは内容的に全く異なるものである。中継物流拠点とする方針の大転換をするのであれば、公募プロポーザルの前に、まずは市が基本方針を示して進めるべきではなかったか、市長の見解を伺う

- (2) 第2PAの用地は約5.6haであるが、今回提案のあった計画における開発面積、施設建設の延べ面積を伺う
- (3) 残地を含めた約5.6ha全体の今後の活用に関する方針と、その責任主体について伺う
- (4) 今回の事業計画案は、上り下り両方からの利用が可能となる計画なのか、伺う
- (5) 今回提案のあった事業の枠組みで、市はどのような施設整備を行う予定なのか、伺う
- (6) 事業計画用地と建設したそれぞれの施設は、市が運営するのか、伺う
- (7) 市の収支はどのような目論みなのか、伺う
- (8) 今回提案のあった事業の枠組みで、掛川市としての主体性はどこにあるのか、伺う
- (9) 今回の事業計画案で、地元や市全体に対するメリットは何があるのか、またそれ以外の公益性はどんな点があるのか、市長の見解を伺う
- (10) 今回提案のあった枠組みのまま進めれば、この事業は、市は「開発事業協力者」に単に敷地の一部土地を長期間貸して地代をもらうだけ、事業協力予定者は倉庫を建設して特定の1社ないし数社の流通事業者等に貸す事業を営むだけ、また施設を借りた事業者は専ら自らの運輸事業に活用するだけ、そして残りの土地は手の付けようのない状態のまま永遠に野ざらしになるというような結果になるのではないかと危惧する。市としてこの計画が良いと考えて提案を受けたのか、市長の見解を伺う
- (11) 中継物流拠点としての公益性の観点からは、事業の枠組みを再検討していくべきではないか、見解を伺う
- (12) 今後6か月以内に基本協定を締結する運びとのことであるが、拙速ではないか。どのような視点で事業協力予定者との協議調整に臨んでいくのか、考え方を伺う
- (13) この事業を、多くの市民が長年悲願している第2PAスマートインターチェンジの設置に向け、どのようにつなげていくのか、方策を伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

|      |    |    |           |   |
|------|----|----|-----------|---|
| 議席番号 | 14 | 氏名 | 富 田 ま ゆ み | 質問の方式 ( <span style="border: 1px solid black;">一問一答</span> ・一括) |
|------|----|----|-----------|---|

1 市長の政治姿勢から地域幸福度と対話について

(答弁：市長)

策定が進められている第3次掛川市総合計画には、将来像の重要業績評価指数として、地域幸福度（W e l l－B e i n g）指標が挙げられている。選ばれる掛川市となるには、W e l l－B e i n gの向上は非常に重要なものとする。また、市民の満足度を測るものとして、市民意識調査が1つの指標となっているが、地域の満足度を上げるものとしては、地区集会がその役割を果たしていると言える。これらのことを踏まえ、2期目をスタートさせた久保田市長の政治姿勢を伺う。

- (1) 第3次掛川市総合計画に将来像（ビジョン）の実現評価指標として挙げられている地域幸福度（W e l l－B e i n g）指標とは、具体的にどのようなものであり、どう活用していくのか、伺う
- (2) 令和6、7年度の地区集会は、開催地区を2つに分け隔年開催となった。令和6年度開催地区における成果と課題について伺う
- (3) 地区集会の趣旨は、市や地区の課題を主に地区の役員と行政が情報共有し、課題解決に向けて対話する場であるが、その趣旨に沿ったものとなっているか伺う
- (4) 地区集会は、道路や河川などについて地区からの要望に行政が回答することが多いが満足な回答を得られることは多くない。改善に向けた対話があれば、相互の理解度が高まり満足度も上がるものとするが、見解を伺う
- (5) 令和6年度の開催地区アンケート結果では、市長からの話題提供の時間が高評価だった。地区集会は市長と直接対話できる場として、地域はさらに期待していることから、市長と対話できる時間を設けることが有効であるとするが、見解を伺う

2 市職員が幸福実感を得られる職場環境の整備について

(答弁：市長)

普通退職者の増加を不安に思う市民からの声が届いている。働く人の価値観が大きく変わり、キャリアアップのための転職、いわゆる人材の流動化が当たり前になっている時代背景と、個人の価値観の変化が退職者増加につながっているところも大きいとする。こうした流れは良い面もあるが、経験豊富な人材、将来有望な人材の流出という課題にもつながることから、掛川市の人事戦略、経営戦略について伺う。

- (1) 掛川市の普通退職者の現状をどのように捉えているか、伺う
- (2) 現在の採用、昇進、評価、外部人材登用などの各種制度の改革状況と、今後の具体的な人事戦略について伺う
- (3) 職員が業務における達成感を得られることが、働く意欲をかき立てることにつながると考える。そのためには、実施施策の達成目標（成果目標）を定め、人事評価につなげることが必要と考えるが、見解を伺う
- (4) 職員が業務における達成感を得られれば、成長実感や貢献実感を得られ、これも働く意欲につながると考える。特別昇給とともに期末勤勉手当にも反映するなど、頑張ったことが実感できる制度が必要と考えるが、見解を伺う
- (5) 魅力ある政策が展開されることも選ばれる職場となり、人材確保には欠かせない。総合計画の策定を踏まえ、実施計画などの経営戦略の策定や、掛川市の施策を広く発信することも戦略の一つと考えるが、見解を伺う
- (6) O NとO F Fをしっかりと分ける、有給休暇や産休、育休が取りやすい職場は、若い世代にとって重要な選択肢の一つとなる。業務改善や窓口改善、デジタル活用をさらに進めることが働きやすい環境を生むと考えるが、見解を伺う

# 一 般 質 問 通 告 要 旨

|      |    |    |         |                          |
|------|----|----|---------|--------------------------|
| 議席番号 | 12 | 氏名 | 山 田 浩 司 | 質問の方式 ( <u>一問一答</u> 、一括) |
|------|----|----|---------|--------------------------|

## 1 将来ビジョンと第3次掛川市総合計画について (答弁：市長)

令和6年11月定例会及び令和7年度協働によるまちづくり中央集会において、久保田市長は「未来に向けて誰もが何度でもチャレンジできるまち」という理念を示し、あわせて「人と環境が持続し発展するまち」という行政経営の基本的な考え方にも言及している。さらに、第3次掛川市総合計画の策定過程では、「誰もが、何度でも、チャレンジできるまちづくり」という方向性が示されている。いずれも市長の思いやビジョンが込められた重要な表現ではあるが、その内容やニュアンスに一定の違いも見られることから、市民や関係者への伝え方については、より一層の整理と一貫性ある発信が求められるのではないかと考え、以下の点について伺う。

- (1) 今後、市民や議会への説明にあたっては、市長が掲げる「理念」と、総合計画策定で示された方向性のどちらを軸として説明、発信していくのか、その整理と考え方について、見解を伺う
- (2) 市の将来ビジョンと多様な市民の声を、今後どのように統合し、一貫性のある街の将来像として示していくのか、見解を伺う
- (3) 市の掲げるビジョンを、図やイラストなど視覚的に「見える形」で示すことは、市民にとって未来像をより想像しやすく、理解しやすい手法だと考える。こうした伝え方について、見解を伺う

## 2 深刻化する少子高齢化対策について (答弁：市長)

掛川市では令和6年度の出生数が664人となり、10年前から約40%減少し、将来を担う世代の急減が深刻な課題となっている。「掛川市こども計画」では合計特殊出生率が県平均を上回った実績も示されているものの、子供を産み育てる世代の人口減少や社会的要因により、実際の出生数は減少しており、市の将来にも関わる危機的な状況である。一方で、高齢化も進行しており、現時点の高齢化率は28.8%、15年後には33.7%に達する見込みである。「通院が大変」、「買い物に行けない」といった声も多く、医療、介護体制の整備に加え、買い物支援や介護予防などの包括的支援が必要である。こうした現状を踏まえ、以下の点について伺う。

- (1) 掛川市では、少子化が進行する中で、子育て支援が将来のまちづくりの根幹をなす重要な政策課題となっている。これまでの取組について市としての認識

と、今後どのような方向性で進めようとしているのか、見解を伺う

- (2) 若年層の定住や子育て世帯への経済的支援を通じて、出生数の回復を目指す必要があると考える。例えば、小中学校入学時の支援金のような新たな施策の導入について、今後、市として取り組む考えがあるか、見解を伺う
- (3) 出生数の回復には、第2子、第3子以降の出産を後押しすることが重要である。複数の子供を育てる家庭への支援について、今後どのように強化、充実させていく方針か、市としての見解を伺う
- (4) 高齢化率が高まる中、医療、介護の人材確保や在宅支援体制の整備は喫緊の課題である。特に、訪問診療や訪問介護を支える人材の確保や育成は、地域包括ケアの要であり、その充実が求められている。こうした人材確保に関する市としての課題認識と、今後の人材戦略に対する見解を伺う
- (5) 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、地域の支え合い、買い物支援といった直接的な生活支援の充実が欠かせないとする。こうした支援体制について、市としてどのような方向性を描いているか、見解を伺う

### 3 いこいの広場野球場（掛川球場）の老朽化について

（答弁：市長）

掛川球場は、これまで高校野球、市民スポーツ、ＪＤリーグなどの拠点として一定の役割を果たしてきた。しかし、近年では「施設が古くなっている」との声も一部にあり、市民全体で老朽化への危機感や問題意識が十分に共有されているとは言い難い現状がある。また、公共施設では「目に見える劣化」だけでなく、構造面や設備の内部においても老朽化が進行している可能性があり、事故やけがのリスク、そして対応にかかる財政負担が将来的に一気に顕在化するおそれもある。こうした観点から、掛川球場は老朽化対策と今後の活用方針について、優先的に現状把握と議論を進めるべき施設のの一つと考え、以下を伺う。

- (1) 今後のまちづくりやスポーツ振興の観点から、掛川球場を引き続き市にとって必要な施設と捉えているか、市の基本的な認識を伺う
- (2) 掛川球場の設備や構造の老朽化について、市として現状をどのように認識し、どのように向き合おうとしているのか、見解を伺う
- (3) 今後、応急的な修繕を繰り返すことで財政負担が増大する懸念や、事故、トラブル発生時に市の管理責任が問われる可能性もある。こうしたリスクを踏まえ、掛川球場の安全確保と長期的な維持管理の在り方について、見解を伺う
- (4) 今後、掛川球場を再整備する場合には、「地域の健康づくりの拠点」、「世代を超えた交流の場」、「防災時の物資集積拠点や避難スペースの確保」など、単なるスポーツ施設にとどまらない多機能型施設の可能性があるとする。こうした観点も含めて、掛川球場の再整備や活用方針について、今後検討を進めていくのか、見解を伺う

※ 合計特殊出生率とは、一人の女性が一生の間に産む子供の数を推計するための指標。具体的には、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率

# 一 般 質 問 通 告 要 旨

|      |   |    |         |   |
|------|---|----|---------|---|
| 議席番号 | 3 | 氏名 | 山 下 浩 章 | 質問の方式 ( <span style="border: 1px solid black;">一問一答</span> ・ 一括 ) |
|------|---|----|---------|---|

## 1 道路、公園、河川の除草作業について

(答弁：市長)

道路、公園、河川の草刈りは市内どの地域でも悩みの種である。議会でも度々一般質問に取り上げられ、地区集会では一番の話題となっている。本市でも草刈り作業員による除草や、令和6年度からは自走式草刈り機貸出事業を始めるなど予算をかけて対策を行っているが、草の勢いに追いついていないのが現状である。そこで草刈りの負担を少しでも減らし、地域の悩みも減らせるような取組ができないか伺う。

- (1) 道路と歩道の境の雑草処理においては、草の根株や周辺の土ごと処理し、再生しにくくする方法が人的、費用的負担の削減につながる有効な方法と考えるが、いかがか
- (2) 草刈り作業員や業者等に依頼をしても追いつかない草刈りについて、個人や団体などから有償ボランティアを募り、委託する考えはないか伺う

## 2 A I オンデマンド交通実証実験と地域公共交通の今後について

(答弁：市長、教育長)

掛川市が進めるA I オンデマンド交通（※1）実証実験が具体化し、先日実施されたプロポーザルで事業者も決定した。令和7年度は桜木地区での実証実験を開始し、令和8年度には本格運用、早ければ令和9年度には他地域への展開も予定されている。この実証実験の内容や計画の進捗状況、さらに掛川市における地域公共交通の現状と今後の方向性について伺う。

- (1) 掛川市A I オンデマンド交通実証実験を桜木地区で実施する理由を伺う
- (2) 桜木地区でのA I オンデマンド交通導入から本格運用までの具体的なスケジュールを伺う
- (3) 現在のA I オンデマンド交通実証実験事業では、大東、大須賀エリアについては、生活支援車のフィーダー交通化とあるが、詳細を伺う
- (4) 公共交通機関の整備が不十分な地域において、スクールバスの空き時間を地域住民用のコミュニティバスとして活用する計画はないか伺う
- (5) 運転免許証返納時のサポート制度について、金額や回数の拡充など支援拡大の実現性について伺う
- (6) 医療施設へのアクセスが困難な地域に対して、医療M a a s（※2）による、オンライン遠隔診療、移動診療車、オンデマンド送迎サービスの実現可能性に



ついて伺う

- ※1 AI オンデマンド交通とは、AI と呼ばれる人工知能で、利用者のリクエストに基づいて最適な運行ルートを決出し、運行する乗合型交通サービス。路線バスのように決まった時刻表や経路がないのが特徴。
- ※2 医療MaaSとは、モビリティサービスと情報通信技術（ICT）を組み合わせ、患者の通院や医療サービスの利用を受けやすくする取組。

## 一 般 質 問 通 告 要 旨

|      |    |    |         |  |
|------|----|----|---------|--|
| 議席番号 | 19 | 氏名 | 窪 野 愛 子 | 質問の方式 ( <span style="border: 1px solid black;">一問一答</span> ・一括 ) |
|------|----|----|---------|--|

### 1 全ての市民の人権の尊重及び男女平等の推進について (答弁：市長)

令和6年6月、世界経済フォーラムが発表した日本のジェンダーギャップ指数は146か国中118位で、G7では最下位である。政治、経済分野の低迷が特に顕著であり、男女格差は依然として改善されていない。今後、少子高齢化や人口減少の加速により、様々な場面で人手不足が顕在化し、担い手として欠かせない女性の参画がこれまで以上に求められている。令和7年度、本県を含む35都道府県では人口減少対策等を目的に、女性を支援する新規事業や既存事業に予算の拡充を盛り込んでいる。本市においても若者支援や女性支援の拡充を図り、市外への人口流出を防ぎ、選ばれるまちとなるため施策の充実が必要と考え、以下を伺う。

- (1) 令和6年7月の市民意識調査報告書では、相変わらず男女共同参画が進んでいないと回答した人の割合が高い。男女格差解消や環境整備等、女性の活躍をさらに促進するため、新たな取組が必要と考えるがいかがか
- (2) あらゆる分野における性別に関するアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）解消に向けた普及啓発を、全市的に促進していく必要があると思うがいかがか
- (3) 男女格差の解消や女性の活躍を促進するために、2024年版「女性が活躍する会社BEST100」に3年連続で総合ランキング1位の優良企業（資生堂）の取組を、官民が共に学ぶ機会を設けることはできないか、伺う
- (4) 第3次掛川市総合計画等の策定を踏まえ、掛川市の未来を考える「未来シンポジウム」開催の計画があるが、その目的と内容について伺う

### 2 未来を担う子供たちの育ちに寄り添い、支えていくための環境整備について (答弁：市長)

国はこども基本法に基づき「こども大綱」を策定し、こどもまんなか社会の実現に向け、こども家庭庁を設立した。本市においても次世代につながる持続可能なまちづくりを目指すため、様々な計画を包含し「だれもが自分らしく心ゆたかに暮らせるまち掛川」を基本理念に「掛川市こども計画」を令和7年3月に策定し、同年4月には徳育保健センター内に、子供と子供を支える人たちの相談窓口を一体化した「掛川市こども家庭センター」を設置した。今後、ますますセンターの需要は高まることが予測されることから、以下について伺う。

- (1) 「掛川市こども家庭センター」では、これまで以上に専門性の高い相談対応

が求められると考えるが、現在の専門職の配置状況と今後配置を予定している職種等について伺う

- (2) 令和6年8月定例会一般質問において、5歳児健診の必要性和早期実施を訴えた。検討するとの回答だったが、現在の状況を伺う
- (3) 年齢を問わず対応してきた「のびる〜む」が、子供に特化した所管課に移ったことで、利用者に混乱はないか、伺う

※ジェンダーギャップ指数とは、男女共同参画に関する国際的な指数。世界経済フォーラムが、教育、健康、政治、経済の分野ごとに、男女格差の指数であるジェンダーギャップ指数を算出している。

## 一 般 質 問 通 告 要 旨

|      |   |    |         |   |
|------|---|----|---------|---|
| 議席番号 | 2 | 氏名 | 川 上 志 満 | 質問の方式 ( <span style="border: 1px solid black;">一問一答</span> ・一括) |
|------|---|----|---------|---|

### 1 ごみの全量外部搬出に関する市民への説明について (答弁：市長)

環境資源ギャラリーの建て替え工事のため、令和7年4月から5年間で約120億円規模の外部搬出が始まった。しかし、この建て替え工事や外部搬出の金額、期間や委託内容は本当に妥当であるのか、市民への説明がほとんどないまま進められていることに大きな疑問を感じている。そこで、以下について伺う。

- (1) 建て替え工事と外部搬出について、ギャラリー周辺の一部地域には説明があったが、多くの予算を投入することであり、市全体への説明もすべきだったのではないかと、見解を伺う
- (2) 外部搬出が5年にも及ぶことや莫大な費用が必要となることについて、早期に市民に説明すべきであったと思うが、見解を伺う
- (3) 有事の際、ごみの搬送ができず、ごみ置き場だけでなく道路などへの滞留が懸念されるが、対策はされているのか伺う
- (4) ごみの外部搬出には、令和6年度と比較し、約6億9千万円の増額が見込まれている。掛川市が負担する金額の根拠についても、わかりやすく市民に説明すべきと考えるが、見解を伺う
- (5) ごみの減量については、市民も積極的に関わることができる。生ごみ処理機などの助成だけでなく、調理法など、ごみを出さないことについても、研究、検討すべきと考えるが、見解を伺う

### 2 学校再編計画に関する市の説明責任と住民参加の在り方について (答弁：教育長)

原野谷、城東学園の学校再編計画が進められているが、地域との検討委員会前に方針が固まり、住民の声が十分に反映されていないように思う。

また、再編により通学距離が大幅に延びることで、体力的、時間的負担が見込まれるが、保護者や住民に対する丁寧な説明や参加の機会も十分に与えられてきたとは言えないのではないか。そこで以下について伺う。

- (1) 通学距離が大幅に延び、徒歩通学が難しい児童に対する具体的な支援策について伺う
- (2) 学校再編の議論において、子供たち自身の声は、どのように拾い上げられ、政策に反映されているのか伺う
- (3) 統廃合により、通学距離の延伸や大人数教育の負担など、新たな課題も懸念

される。市としても子供たちの心のケアを十分にしていこう必要があると考えるが、見解を伺う

### 3 学校給食の改善と保護者の声の反映について

(答弁：教育長)

掛川市の学校給食については、令和7年2月にSNS上で「量が少ない」、「見た目が貧相だ」といった声が挙がり、話題となった。その後、改善が図られたように思うが、子供たちや保護者の声は様々である。毎日の給食は子供たちの健康な心と体を育む食事であるべきである。子供たちや保護者の声を反映していく仕組みが必要だと考えるが、以下について伺う。

- (1) 保護者や子供たちの声を反映するため、給食に関する意見収集の現状と、全市的なアンケート実施の可能性について伺う
- (2) 保護者を対象に、学校給食センターの調理作業などの視察や試食会を実施し、保護者の意見を取り入れる取組はできないか伺う
- (3) 添加物の多い加工品が頻繁に使われている現状に、保護者からは健康面や栄養バランスを不安視する声が上がっている。できるだけ素材を活かし、添加物を減らす方向性について市の見解を伺う